



実施者

《教 員》	千葉大学 特任専門員 / 地域コーディネーター 阿部 厚司
《学 生》	千葉大学 国際教養学部 国際教養学科 3年 大貫 文荷 千葉大学 法政経学部 法政経学科 3年 中島 朋幸 千葉大学 教育学部 小学校コース社会科専修 3年 伊藤 ほの香 千葉大学 教育学部 英語教育コース 3年 大隅 光留
《協働パートナー》	【個人】合同会社 AWATHIRD 代表 永森昌志 南房総市地域おこし協力隊 / ハラオカハウスマネージャー 横山 知由 里山料理家 / 出張女将 木村 優美子

1. 背景・目的

現在、日本では総人口の減少及び少子化・高齢化の進行が深刻化し、今後もさらなる減少が予想される。特に地方においては、空き家の増加や都市圏への人口流出など、その影響は計り知れない。実際に、令和5年に国が実施した住宅・土地統計調査によると、千葉県の空き家数は約39万4千戸で、住宅総数に対する割合は12.3%である。また、この数は年々増加の傾向にあると指摘されている。そのため、東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることを目的とした地方創生が課題となっている。

よって、本プログラムでは、千葉大学のコミュニティノベーションオフィスと連携している、南房総市での現地視察と原岡エリアでの宿泊演習を行った。そこでは、空き家問題や地域一体となったエリアリノベーションの取り組みと、移住・定住に繋げる観光誘致策について考察し、理解を深めていった。現地の方と話しながら、里山食材を用いた料理体験や空き家活用の取り組み、現地でのリサーチ活動を通して、座学では知り得なかった地方創生の現状について学んだ。

活動の最後にさらなる関係人口の創出に向けて、フォトスタジオやゲストハウスなど空き家の新たな活用に関する提言を行った。

2. 実施内容

(1) 実施日

学内活動 (8/1,9/10,9/17)

現地視察 (8/8) : YANE TATEYAMA, HARAOKAHOUSE

現地宿泊演習 (9/3-9/4) : ヤマナハウス, HARAOKAHOUSE

(2) 活動内容

1) 千葉大学構内

千葉大学のコミュニティノベーションオフィスで主に本プログラムの実施目的や全体像、方向性について確認した他、空き家の現状などエリアリノベーションに関する座学を行った。また、最終提案に向けて各自で提案を持ち寄り、フィードバックを頂ながら議論した。

2) YANE TATEYAMA

YANE TATEYAMAでは、ブックカフェである北条文庫と伝右衛門製作所を見学した。北条文庫では、郷土史やアート、旅に関連した古本が多く置かれていた。奥にある伝右衛門製作所では、南房総のシカ、イノシシ、キョンといった、農作物に被害を及ぼす動物の皮など、里山で手に入るものを使用した製品を作成している。野生動物がジビエになる過程で皮はゴミになり、お金をかけて焼却処分をする必要がある。伝右衛門製作所はその皮を資源として引き取っていることから、地域の素材を、地域でうまくいかして商品にしていくことを学んだ。

3) ヤマナハウス

ヤマナハウスでは、里山で採れる食材の活用方法について学んだ他、実際に向いてどのような植物が生息しているのか調査した。また、それらの食材やジビエを使った料理体験を行った。普段見ることが出来ない自家製醤油の製作過程や、捨てられることの多いみかんを用いたオレンジビュールの製作方法などを紹介していただいた。ゴミとして捨てられてしまうものや、食材になりえないと認識していたものでも、工夫一つで魅力あふれる商品になることを学んだ。

4) HARAOKAHOUSE

空き家をリノベーションしたHARAOKAHOUSEでは、観光誘致やエリアリノベーションに関する座学を行った。具体的には、アルベルゴディフーズといった取り組みや、SWOT分析を用いて関係人口を増やし、移住から定住に繋げる考察などが挙げられる。実習の中では、実際にリノ



1 YANE TATEYAMA 見学 2 料理体験 3 SWOT分析を用いた観光誘致策の考察

域学協働の工夫！

- ★南房総は、ほとんどのメンバーにとってなじみのない土地だったが、様々な見学・体験活動を楽しみながら地域の可能性を発見し、どうすれば施設の魅力を引き出すことができるのかを想像し、意見交換をした。
- ★SWOT分析に基づいて意見を出し合った。各自が出した南房総市の課題やいいところはいくつも一致したので、課題解決と魅力向上につながる4つのアイデアを出し、実現可能性や効果を考えて洗練化した。
- ★思いついたコンセプトに関連した他の地域の取り組みを参考にすることで、HARAOKA HOUSEならではの独自性や強みを生かせるようなアイデアに応用させた。

ベションをしている空き家の中を見学したり、併設する海の家で体験学習を行った。リノベーションの過程を見学できることは大変貴重であり、多くの学びを得た。また、エリアリノベーションに取り組む現地の方の話を聞きながら、地域が連携してまちおこしをしていくことの重要性を再認識した。

3. 成果と課題

(1) 地域貢献面

原岡桟橋に関して、HARAOKAHOUSEを絡めた地域おこし策を幾つか提案することで、南房総市という特に若者が少ない地域において、学生目線で新しい視点を提供出来た。市役所でのプレゼンテーションの際には、特に原岡桟橋に設置するポストとポストカードに関する施策が好評であった。しかし、提案した施策の実施には費用・労力もかかるため、そうした問題の解決については十分に取組めてはいない。

(2) 教育・研究面

教育効果は非常に高い企画だったと考える。千葉に密着した地域

*表彰・マスコミ掲載など

・特になし

課題である少子高齢化や過疎化などについて、実際に現地に赴いて解決策をビジネスフレームワーク(SWOT分析)を駆使して具体的に考えることが出来た。ジビエ料理等も体験し、地域のリアルに向き合うことが出来た。また、濃密なグループワークを通して、学生の共同作業のスキルも大いに向上した。

4. 今後の展開

提案をしてからその提案を実行に移すためには、様々な視点から考え、詳細に検討する必要があるということを実感した。私たちが提案した解決案には、費用面や労力面などにおいて様々な課題がまだ残っている。そのため今後はそういった部分にも目を向けていき、より洗練された案を考えていく必要があるだろう。

また、実践的な活動を通して新たな視点や知識、スキルを学ぶことが出来た。これらは別の地域課題に取り組む際や、他の分野の研究を進める時にも生きてくるものである。今回は南房総市での問題に着目したが、そのほかの地方でも同様に空き家の増加や都市圏への人口流出など、様々な問題が起こっている。この機会を得た学びを踏まえ、その他の場所で起こっている影響や課題にも注目して、検討していきたい。